

広報 いずみの

KOUHO
IZUMINO

平成 22 年創刊

夏真っ盛り、暑い日が続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか？
今回は排泄に関するお話とイベントのご案内をさせていただきます。

排せつ支援の取り組み ②

排泄がコントロールされた状態とは、排泄物がある程度ためることができ、認められた方法で気持ち良く出し切ることで、これが正常な排泄状態ですが、必ずしも正常でなくてもコントロールすることはできます。そのためには、リハビリなどで身体機能を維持、向上したり、様々な排泄用具をうまく活用したりすることでその人が持っている能力を活かしながら生活の援助をする必要があります。

たとえば、一言にトイレでの排泄といっても、実はいくつもの連続した動作を行う高い次元の機能が必要とされます。それは、(1)尿意・便意を感じる(2)トイレを認識する(3)移動する(4)脱衣する(5)トイレに座る(6)排尿・排便をする(7)後始末をする(8)着衣する…などで、これらを連続してスムーズに行わなくてはなりません。この一連の動作のどこかが何らかの障害によってできなくなってしまう場合、その障害の度合いによってそれぞれに応じた援助が必要になってきます。



ホームページもご覧下さい

老健いずみの

検索

介護療養型老人保健施設 いずみの
〒386-1106 上田市小泉 72-1
Tel.0268-26-6600 Fax.0268-26-6615
通所リハビリテーションいずみの
Tel.0268-26-6650
いずみの居宅介護支援事業所
Tel.0268-26-6680
訪問看護ステーションやまびこ
Tel.0268-26-6640
鹿教湯病院訪問リハ塩田出張所
Tel.0268-26-6625

失禁がある＝オムツ、というように安易に考えてしまいがちです。オムツは当然のことながら排泄物を吸い取る機能があるので介助者にも本人にも「漏れなくて安心」という思いを与えてしまうことがあります。それが長く続いてしまうと排泄行為を自立化しようとするときに尿意がなくなってしまうたり、排泄に関わる動作を忘れてしまったりするなど、自立へのチャンスや意欲の芽を摘み取ってしまいかねません。

いずみのでもその人の排泄状況に応じた対応ができるよう、日頃の排せつパターンを知るための観察を行い、それぞれに合った援助を行うことで介助負担の軽減に繋がっていくことを課題として排せつ支援に取り組んでいます。

(介護福祉士 上坂拓也)



新任の師長の紹介



新元号となった5月1日から老人保健施設いずみので勤務しております看護師の金井政子です。よろしくお願ひ致します。

平成の時代は、三才山病院に勤務しておりました。令和の時代となり気持ちも新たに、利用者さんのために良いケアを提供できるように、新天地いずみで頑張ろうと思っております。ご指導をよろしくお願ひ致します。

職員紹介



この度支援相談員として勤務させていただくこととなりました岩崎なほみと申します。これまでは鹿教湯病院の医療ソーシャルワーカーとして働いていました。病院と施設の違いに四苦八苦しておりますが、早く慣れるように頑張りたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

イベント



6月12日に泉田保育園の子どもたち28名が来てくれました。歌の発表や利用者さんと手遊びをして楽しんでいました。

利用者さん達は子どもたちとのふれあいをとても喜んでおり、涙する方もいらっしゃいました。

第10回いずみの祭のご案内

第10回いずみの祭を9月22日(日)午前9時30分から開催する予定です。今年は記念すべき10回目を迎え、職員一同、来場者の皆様が例年以上に楽しんでいただける企画を考えている最中です。今年もJA信州うえだ上田西支所においてJA祭も同時開催の予定です。



編集後記

いずみの中の飾り付けも夏の装いになってきました。四季折々の変化を感じていただければ幸いです。